

社 会 科 学 習 指 導 案

指導者 横浜市立中山小学校

坂入 亮太

1. 単元名『わたしたちのくらしと情報 防災情報と未来の社会』

2. 学年・人数 第 5 学年 1 組 36 名

3. 単元目標

放送や新聞などの産業が発信する情報やコンピューターシステムを利用した情報産業の現状、また、それらが利用されている様子を調べることを通して、わたしたちの生活が情報化の進展によって大きな影響を受けていることや、情報の有効な活用や、責任をもったかかわり方が大切であることを考えることができる。

4. 単元の評価規準（横浜版学習指導要領より転記）

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
- 放送などのマスメディアを通して情報を提供している産業や情報化した社会の様子と国民生活とのかかわりに関心を持ち、意欲的に調べている。 - 情報産業の発展や社会の情報化の進展に関心を持ち、情報を有効に活用することの大切さを考えようとしている。	- 放送などのマスメディアを通して情報を提供している産業や情報化した社会の様子と国民生活とのかかわりについて学習問題や予想、学習の見通しをもって考え、表現している。 - 情報産業の様子や情報化した社会の様子と国民生活を関連付けて、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考え、適切に表現している。	- 資料やインターネットを活用したり、聞き取り調査をしたりして、我が国の情報産業や情報化した社会の様子について必要な情報を集め、読み取っている。 - 調べたことから必要な情報を選んで図表や作品などにまとめている。	- 放送、新聞などの産業と国民生活とのかかわりが分かっている。 - 情報化した社会の様子と国民生活とのかかわりが分かっている。 - 情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることが分かっている。

5. 単元について

① 児童の実態

本学級の児童は本年度の社会科学習において、自分で調べた事実と教師から提示された資料をもとに自分なりの考えをまとめ、話し合う学習に取り組んできた。進級当初は話し合うための語彙が少なく、お互いの意見を聞き合う態度や技能も低い実態が見られたものの、継続して話し合いに取り組むことで基本的なスキルを身に付けつつある。始めのうちは相手意識のない単語の発言が目立ったが、現在は児童同士で言葉をかけ合ったり、他の児童の話した事柄に加えて自分の意見を言ったりする姿も見られるようになった。また、社会科のそれぞれの単元で少しずつ人との出会いを重ね、農業や水産業、工業の学習で出会った人に自分たちなりの思いを届け、交流する体験をしてきている。加えて、年間を通して取り組んでいる稲作体験学習では、田植えから稲わら細工づくりまでの活動の中で、地域の方々の稲作に対する思いに触れながら米農家の苦労の一端を経験することができた。さらに、1月に予定している学習発表会「中山プロジェクト」では、稲作体験学習の成果を、プレゼンテーションソフトを使用して発表することに取り組む。発表内容を簡潔にスライドにまとめ、相手に伝わる話し方で発表するためにはどうすればよいか、児童なりの工夫をこらして準備を進める予定である。

学習の前提となる予備知識には若干の物足りなさを感じる場面が多いので、学習を進める中で補助的に教師が話したり、資料提示したりしていかないと、学習そのものが成立しないこともある。その点については十分に準備して授業に望む必要がある。

また、情報端末として携帯電話やパソコン、タブレット PCなどを日常的に使用している児童は多く、日頃から Eメールや SNSなどをコミュニケーションツールとして利用している実態がある。調べ学習にインターネットを利用するだけではなく、放課後の話を携帯電話のアプリケーションを介して行ったり、自作の動画をネット上に投稿したり、児童が生活の中で情報化社会の一端に何らかの形で触れているのは間違いない。本単元では、調べ学習や取材の場面で情報機器を積極的に使用することが、児童の意欲的な学習活動につながるのではないだろうか。

② 単元について

本単元では、第1小単元で情報が果たす役割と情報の本質や目的について、第2小単元で目的に応じた情報活用の工夫について学習する。情報の発信者がどのような立場で仕事をしているのか、また、受信者はどのような情報を必要としているのかをとらえた上で、ネット社会の功罪と発信者、受信者それぞれの責任がどのようなものであるかをとらえていきたい。それをうけて、産業学習で出会ってきた人々の具体例について考えたり、情報化社会の最先端で働く人々に取材したりすることを通して、これからの社会が目指していくべき方向についてとらえていきたい。自分たちが日頃から何気なく使っている機械がいったいどのような物で、それを使うということはどのような社会で生きるということなのか、小学5年生なりの捉え方で考えていきたい。

③ 単元構想図（全 15 時間）

食料生産（水産業）の学習で扱った内容

サンマ漁を営む気仙沼漁港は東日本大震災で大きな被害をうけている。

しかし、現在はカキやワカメの養殖が盛んに行われているようだ。



単元の導入としての学習課題

気仙沼でワカメの養殖を営む K さんの話から

「震災で被災した気仙沼の人々は、どうやって復興に向けて歩いていったのだろうか」

- ・ 震災直後、被災地の人々はどのように情報を活用したのだろうか。
- ・ 施設が壊れ、大きな被害を受けている。どうやって情報は発信されていたのだろうか。



第 1 小単元 情報が果たす役割

（全 10 時間）

- 東日本大震災後、気仙沼の人々が活用した情報はどのようなものなのか
 - ・ メモがたくさん貼られた掲示板
 - ・ 手書きで発行され続けた新聞 ⇒ 全国の支援者に対する情報発信
 - ・ 人々が伝え合った情報
- 気仙沼の人々に情報を届けた新聞記者の思い
 - ・ 災害で傷ついた人々を勇気づけるために
 - ・ 災害で不足している物を届けるために
 - ・ 離ればなれになった家族を結びつけるために
- 情報を受けとる人々の思い
 - ・ 家族が無事かどうか確かめたい
 - ・ これからの生活がどうなるのか見通しておきたい
 - ・ ふるさとのまちがどうなっているのか、これからどうなるのか知りたい
- 情報化社会とわたしたちの暮らしの関わり（日常生活との関わり）



小単元をつなぐ学習課題

T 社で情報発信ソフトを開発する N さんの話から

「わたしたちが生活する社会は、これからどのように変わっていったらよいのだろうか」



第 2 小単元 目的に応じた情報活用の工夫

（全 5 時間）[本時③/5]

- わたしたちが活用する情報はどうやって発信されているか
- 情報を発信するために必要なもの（インフラ整備・端末開発・ソフト開発）
- 情報化社会で開発に取り組む人々の思い [本時]
- 情報化社会の問題点（ネット社会の功罪）
- これからの情報化社会とわたしたち

6. 研究テーマに迫るための手立て

① 緑区小学校情報・視聴覚研究専門部会の研究テーマ

自ら学び続ける子どもを育てるための、情報・視聴覚教育メディアをいかした学習の推進
～明日の授業に役立つ教材・機器の活用～

② テーマに迫るための手立て

○ **手立て1** コミュニケーションツールとしての情報機器の活用

児童がすでに日常的に使用しつつある情報機器を、外部講師との連絡や他校との情報交換に活用する。
本単元では特にテレビ電話あるいは、Web 会議システムを活用する可能性を探りたい。

○ **手立て2** 資料提示の方法としての情報機器の活用

必要に応じてデジタル化した資料を提示して学習に活用する。また、既習事項についてはデジタル化して整理し、いつでも引き出して使用できるようにする。

○ **手立て3** 授業記録の保存と振り返りのための情報機器の活用

授業記録（主に板書）をデジタル化して保存・整理し、児童の学習場面で必要に応じて活用する。

7. 本校教育目標及び中期学校経営方針との関連

中山小学校 教育目標

豊かななかかわりの中で「生きる力」を身につけます

ここで言う「豊かななかかわり」とは、児童同士、児童と教師、児童と地域などといった人とのなかかわりだけではなく、児童と学習問題、あるいは児童と教材・教具といった広い意味でのなかかわりを指している。本学習では、社会科の学習問題を解決していく中で児童同士の意見交流や、児童と外部講師との交流などの場面で、主体的に学ぶ姿の実現を目指したい。

中山小学校 中期学校経営方針

共通取組内容 1：確かな学力

子どもが自分で考え、解決していく学びの過程を大切にしています。子どもが楽しく夢中になる学びを創り、意欲的に学習に取り組む力を育てています。

学習問題を解決していく過程で、必ず自分たちで調べた事実と、自ら考えたり、自分たちで話し合ったりして導いた結論を資料や客観的な事実に基づいて検証する学習を実現したい。そのために、遠く離れた土地の人と連絡を取り合ったり、集めた資料を再度整理したりする活動に情報機器を活用する。

8. 単元の指導と評価の計画（全 15 時間）

次	時	主な学習活動(○)と内容(・)	教師の支援(□)と評価(◆)
1	1 2	震災で被害を受けた気仙沼の人々は、どのような情報を活用したのだろうか。 ○ 写真資料をもとに震災直後の気仙沼の人々の様子を調べる。 ・ 情報活用の原点をとらえること。 ・ 現代の情報化社会が破壊された場合の人々の暮らしをとらえること。	□ 震災直後の現地の様子が分かる資料を用意する。 ◆ 資料をもとに、人々がどのように生活していたのか適切にとらえている。(資料活用)
	3	掲示板や手書きの新聞で伝え合った情報はどのようなものだったのだろうか。 ○ 手書きで発行され続けた新聞や、掲示されたメモの内容を調べる。 ・ 人々が活用した情報の様子をとらえること。	□ 避難所に作られた掲示板の様子が分かる資料や、現地で発行された新聞を用意する。 ◆ 気仙沼の人々が活用した情報の様子から、どのような情報のやりとりをしていたのか考えたことを表現する。(思考・判断・表現)
	4 5	気仙沼で活動し続けた新聞記者たちは、どのような情報を発信したのだろうか。 ○ 震災後、発行されるようになった新聞の記事を調べる。 ・ 情報発信する者の考えをとらえること。 ・ 情報をもつ影響力をとらえること。	□ 機械で発行されるようになった当時の新聞を用意する。 ◆ 新聞記者が発行した記事の内容から、記者が伝えたかった事柄をとらえ、考えたことを表現する。(思考・判断・表現)
	6	気仙沼の人々は、どのような思いで情報を受けとっていたのだろうか。 ○ 現地の人々の話を聞き、当時の様子取材する。 ・ 情報受信する者の考えをとらえること。 ・ 情報をもつ影響力をとらえること。	□ 情報機器を使用し、現地の人々と連絡をとる。 □ 児童の思考に沿って、その場で質問できるようにする。 ◆ 気仙沼の人々が受けとっていた情報について関心をもち、意欲的に調べている。(関心・意欲・態度)

	7 8	ワカメ養殖が復活するために、どうやって全国の支援を集めたのだろうか。 ○ 復興支援が集まる様子や、ボランティアの活動を調べる。 ・ 情報を活用し、行動した人々の様子をとらえること。	□ 現地のボランティアがどのように集められたか分かる資料を用意する。 □ 情報機器を使用し、現地の人々と連絡をとる。 □ 児童の思考に沿って、その場で質問できるようにする。 ◆ ボランティアの活動の様子について関心をもち、ワカメ養殖の復興について意欲的に調べている。（関心・意欲・態度） ◆ ボランティアの活動の様子について調べ、復興と情報との関わりに着いて考えたことを表現する。（思考・判断・表現）
	9	わたしたちは、生活の中でどのように情報を活用しているだろうか。 ○ 日ごろから生活の中で活用している情報について調べる。 ・ 情報が国民生活に大きな影響力をもっていることをとらえること。	□ 情報機器を使用し、日ごろから活用している情報が調べられるようにする。 ◆ 情報化の進展が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解する。（知識・理解）
	10	わたしたちが気仙沼の人々にできることは何だろうか。 ○ 学習したことを生かし、これからの生活で自分たちができることを話し合う。 ・ 情報の力を生かして、自らにできる具体的な行動について考えること。	□ 現実的な課題となるように、児童の力でも無理なく、継続的に取り組める内容を選ぶ。 ◆ 情報の力を生かし、自分たちにできることを適切に考え表現する。（思考・判断・表現）
2	11	わたしたちが活用する情報はどうやって発信されているのだろうか。 ○ 情報機器が活用される場面や、それに関わる人々の仕事を調べる。 ・ 情報化した社会の様子をとらえること。	□ Web 配信のニュースを作る人々の仕事が分かる資料を用意する。 □ 情報機器や情報ソフトを開発する人々の仕事が分かる資料を用意する。 ◆ 情報化の進展が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを知る。（知識・理解）

	12	情報を発信するために必要なものは、どのようなものだろうか。 ○ 情報を送受信するための設備を調べる。 ・ 情報化した社会の様子をとらえること。	□ 情報配信を可能にする設備について分かる資料を用意する。 ◆ 情報化の進展にともなって、社会の様子も大きく変化していることを知る。（知識・理解）
本時	13	情報機器の開発に取り組む人々は、どのような思いで仕事をしているのだろうか。 ○ 情報機器を使うわたしたちに対して、開発者はどのような思いをもっているのか取材する。 ・ 情報化社会の最先端で仕事をする人々の思いを知ること。	□ 情報機器を使用し、開発者に取材できるように準備する。 □ 児童の思考に沿って、その場で質問ができるように準備する。 ◆ 情報化社会の最先端で活躍する人々の思いを調べ、国民生活の変化について考えたことを表現する。（思考・判断・表現）
	14	情報化社会にはどのような問題点があるだろうか。 ○ 情報化社会にまつわる事件や事故を調べる。 ・ 情報を発信することによって生じる責任を知ること。 ・ 情報を受信することによって生じる危険を知ること。	□ 情報化社会特有の問題に起因した事件や事故の様子が分かる資料を用意する。 ◆ 情報産業や情報化した社会の様子から、その問題点や、自分の身に降り掛かる危険についてとらえる。（資料活用）
	15	これからの情報化社会で、わたしたちはどのように生活したらよいだろうか。 ○ 学習したことを生かし、これからどのように生活していったらよいか話し合う。 ・ これからの社会で生活するために必要な資質について考えること。	□ 情報を有効に活用することの大切さについて話し合えるように方向付けをする。 □ これからの社会で生きていくために必要な資質は何かを考えられるように促す。 ◆ 情報化した社会で生きるために必要な資質について考えたことを表現する。（思考・判断・表現）

9. 本時目標（第 2 小単元・3 時間目／5 時間）

情報化社会の最先端で開発に取り組む N さんの思いについて、N さんの考えを取材したり、国民のネット利用に関する資料を調べたりすることを通して、ソーシャルネットワークサービスの在り方について話し合い、いつでも離れた場所にいる人々と交流できることがよさであることを表現できるようにする。

10. 本時の展開

主な学習活動(○)と内容(・)	教師の支援(□)と評価(◆)、資料(資)
○ 情報化社会を支えている人々の思いについて調べよう。 ネット上のコミュニティーサイトを運営する N さんは、わたしたちにどのようなサービスを提供しようとしているのだろうか。 ・ 学習してきたことをもとに、予想したことを簡単にまとめる。 ➤ 速く正確に、たくさんの情報をたくさんの人に届けたいと思っているのではないかな。 ➤ いつでも誰にでも情報が届けられるようにと思っているのではないかな。	□ コミュニティーサイトの様子や、利用者数、サイト運営の主旨などが分かる資料を用意する。 □ 本時までに調べてきた事柄や予想をノートにまとめておき、話し合いの中で発表できるように促す。 □ 板書には児童の考えを分類、整理する。
○ 開発者の方の話を聞いてみよう。 ・ 開発者にテレビ電話をかけ、児童の考えを伝え、取材する。 ➤ 生活の中で起こるすべての行動を情報化して、活用できるようにしたい。 ➤ 情報化されたすべての事柄をもとに、無駄のない生活が送れるようにしたい。 ➤ 遠く離れた場所にいっても、そばにいるのと同じように情報交換できるようにしたい。 ・ 開発者の話を聞き、話してもらったことの意味について話し合う。	□ テレビ電話を使用し、開発者に取材できるように準備する。 ※簡単な事前打ち合わせをもち、予想される質問は伝えておく。 □ 児童の思考に沿って、その場で質問ができるように準備する。 ◆ 情報化社会の最先端で活躍する人々の思いを調べ、国民生活の変化について考えたことを表現する。（思考・判断・表現）
○ 話し合いをもとに、分かったことをまとめる。 ・ 現在はさらに情報化が進むように開発者が取り組んでいる。 ・ 今後はさらに大きな量の情報を、今までよりもずっと速く交信できる社会になる。 →話し合いの結果を開発者に伝え、コメントをいただく。	□ 児童の話し合いを整理し、児童の言葉でまとめるようにする。 □ 取材する相手にコメント求める際、児童のまとめを受けて、今後社会問題となることが予想される事柄について話していただくようお願いしておく。
○ 次の学習のめあてをもつ。 ・ 情報化社会の問題点は何だろうか。	□ 次時のめあてをもち、活動の見通しがもてるようにする。

11. 本時に至るまでの実際の学習活動

次	時	主な学習活動(○)と内容(・)	教師の支援(□)と評価(◆)
1	1 2	震災で被害を受けた気仙沼の人々は、どのような情報を活用したのだろうか。 ○ 写真資料をもとに震災直後の気仙沼の人々の様子を調べる。 ・ 情報活用の原点をとらえること。 ・ 現代の情報化社会が破壊された場合の人々の暮らしをとらえること。 ⇒破壊されてしまったまちで、どうやって人々は情報交換したのだろうか。	□ 震災直後の現地の様子が分かる資料を用意する。 ◆ 資料をもとに、人々がどのように生活していたのか適切にとらえている。(資料活用)
	3	掲示板や手書きの新聞で伝え合った情報はどのようなものだったのだろうか。 ○ 手書きで発行され続けた新聞や、掲示されたメモの内容を調べる。 ・ 人々が活用した情報の様子をとらえること。 ⇒ずっと情報を発信していたラジオ放送では、どのような情報を流していたのだろうか。	□ 避難所に作られた掲示板の様子が分かる資料や、現地で発行された新聞を用意する。 ◆ 気仙沼の人々が活用した情報の様子から、どのような情報のやりとりをしていたのか考えたことを表現する。(思考・判断・表現)
	4 5	被災した人々は、ラジオや手書きの新聞でどのような情報を受けとっていたのだろうか。 ○ 震災直後のラジオ放送や、震災後に発行されるようになった新聞の記事を調べる。 ・ 情報発信する者の考えをとらえること。 ・ 情報をもつ影響力をとらえること。 気仙沼の K さんに電話取材	□ 当時のラジオ番組表や機械で発行されるようになった当時の新聞を用意する。 ◆ 放送番組表や新聞記者が発行した記事の内容から、発信者が伝えたかった事柄をとらえ、考えたことを表現する。(思考・判断・表現)
	6	気仙沼の人々は、どのような思いで情報を受けとっていたのだろうか。 ○ 現地の人々の話を聞き、当時の様子取材する。 ・ 情報受信する者の考えをとらえること。 ・ 情報をもつ影響力をとらえること。 気仙沼の K さんに電話取材	□ 情報機器を使用し、現地の人々と連絡をとる。 □ 児童の思考に沿って、その場で質問できるようにする。 ◆ 気仙沼の人々が受けとっていた情報について関心をもち、意欲的に調べている。(関心・意欲・態度)

	7 8	わたしたちにとって身近な新聞やテレビ番組はどのようにつくられているのだろうか。 ○ 新聞やテレビ番組がどのようにつくられ、どうやってわたしたちのもとへ届けられているか調べる。 ○ 広告の仕組みについて調べる。 ・ 情報を集め、形にして届けている人々の様子をとらえること。 S 社 M さんに取材（教師）	□ 新聞発行やテレビ放送の仕組みを調べる資料を用意する。 □ 広告や公共広告機構の仕組みについて調べる資料を用意する。 ◆ 新聞やテレビ番組のつくられ方を調べ、気づいたことを話し合い、生活への影響について考えている。（思考・判断・表現）
	9	緊急地震速報は、どうやって 15 秒でわたしたちに届けられているのだろうか。 ○ 日ごろから生活の中で活用している情報について調べる。 ・ 情報が国民生活に大きな影響力をもっていることをとらえること。 気象庁 O さんに電話取材	□ どのような機材で情報が届けられているか調べる資料を用意する。 ◆ 緊急地震速報は電気信号ですばやく伝えられる仕組みについて調べている。（資料活用）
	10	わたしたちは、生活の中でどのように情報を活用しているだろうか。 ○ 日ごろから生活の中で活用している情報について調べる。 ・ 情報が国民生活に大きな影響力をもっていることをとらえること。	□ 情報機器を使用し、日ごろから活用している情報が調べられるようにする。 ◆ 情報化の進展が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解する。（知識・理解）
2	11	わたしたちが活用する情報はどうやって発信されているのだろうか。 ○ 情報機器が活用される場面や、それに関わる人々の仕事を調べる。 ・ 情報化した社会の様子をとらえること。	□ Web 配信のニュースを作る人々の仕事分かる資料を用意する。 □ 情報機器や情報ソフトを開発する人々の仕事分かる資料を用意する。 ◆ 情報化の進展が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを知る。（知識・理解）
	12	ソーシャルネットワークサービスは、どのような仕組みで運営されているのだろうか。 ○ 情報を送受信するための仕組みを調べる。 ・ 情報化した社会の様子をとらえること。 T 社 N さんにテレビ電話取材	□ 情報配信を可能にする設備や、国民の利用の様子が分かる資料を用意する。 ◆ 情報化の進展にともなって、社会の様子も大きく変化していることを知る。（知識・理解）